

杉野原の御田舞おんだのまいが奉納されます

杉野原の御田舞は、国の重要無形民俗文化財に指定されている伝統芸能です。2月11日(日) 13時から、有田川町杉野原区の雨錫寺阿弥陀堂(国指定重要文化財建造物)で奉納されます。

御田とは、稲作の作業工程を模擬的に演じることによって、その年の五穀豊穡を神仏に祈願する行事です。高野山周辺に残る御田は、「修正会」と呼ばれるお正月の仏教行事の中で行われてきたものが、長い歴史の中で独立して行われるようになったものと言われています。その起源については明らかではありませんが、地頭や本家・領家といった莊園に関わる言葉が使用されていることから、その歴史は少なくとも室町時代にまで遡ると考えられています。

杉野原の御田舞は、主役である舅・聶の動作と台詞を中心に、太鼓と歌との掛け合いで進行します。春の田起こしから稲刈り、初すりまでの一連の農作業をこれほど丹念かつ克明に演じる御田は全国でも例が少なく、大変貴重なものと評価されています。また、御田舞の冒頭で行われる「裸苗押」は、禪姿の男達が円陣を組んで大

火鉢の周りを回る舞で、杉野原の御田舞の特徴をなす大変勇壮なものです。

現在、全国的にも過疎化によって伝統芸能の保存や継承が困難な時代を迎える中、保存会を中心とした杉野原区民の皆さまの並々な努力によって、数百年以上にもわたる伝統が継承されています。役者は、自主練習や体力作りを行いながら、週3回程度の練習を行い本番に望みます。田植子は安諦小学校4・6年生が演じる予定で、学校と保存会が協力しながら指導をされています。また、奉納当日までには、道具の補修や準備、着付けの確認、舞台の飾りや設営など多くの人々の協力によって支えられています。2月11日には、多くの皆さまにこの歴史ある伝統芸能をご観覧いただき、激励していただければと思います。



写真は平成 28 年奉納の様子